

# 「もったいない」格外卵を減らしたい!

～全農の格外卵低減の取り組みとその展開～

全農では、農場の収益性を向上する重要なポイントの1つとして格外卵の低減を取り上げ、さまざまな取り組みを展開している。今回は、全国の農場で行った現地調査の事例をまとめて冊子化し、発表活動を通じて系統生産者に情報提供を行う活動を紹介する。

## ●飼育日数の長期化と卵殻の問題

この10年ほど日本の人口は横ばいで、1人あたり鶏卵消費量も年間19.6kg前後で一定だが、採卵鶏の産卵能力が向上する中、図のように鶏の羽数は減少傾向にある。更に細かく見ると餌付羽数のほうが成鶏雌羽数よりも大きく減少している。鶏の産卵能力が向上したために鶏の更新時期を延ばして飼育する実態がうかがえる。

しかし、採卵鶏を長期飼育すると卵殻質がどうしても悪化する。そこで、今後は卵殻質を高く維持しながら、格外卵を少なくするための飼養管理がますます重要になる。

## ●格外卵を減らすための取り組み

格外卵の多くは破卵や汚卵である。全農では卵殻質を強化する飼料「エスク」を開発し、カルシウムや重曹、ビタミン等とあわせての効果的な活用を推進している。

更に営業担当や技術者が農場を訪問し、農場の方々とともに格外卵の発生箇所を探す活動も実施している。これらは割れない卵を作りつつ、割らないようにするための取り組みだ。

鶏が産み落とした瞬間の卵に格外卵は少ない。機械化が進んだ現在の大規模養鶏では、格外卵は産卵直後の飼育ケージから、パックを作るGPマシンに至る工程の全てで発生する。実態はまさに農場の数だけあり、同じ農場でも時とともに変化している。

全農では格外卵を低減する取り組みを系統生産者の皆さまに広くお伝えするため、これまでに行った調査の事例や方法を冊子『くみあい養鶏 生産性向上ヒント集 農場格外卵調査事例』にまとめ、系統生産者の方々への配布を始めている。

冊子は、実際に調査を試みた方々や、他の事例を参考に自分



の農場を見直したい方々にお役立っていただきたいと考えている。

## ●調査事例の発表活動

なお、冊子で紹介しきれなかった事例や、取り組みによる経済的メリット、卵殻そのものに関する基本的な知識を紹介する発表活動も展開している。

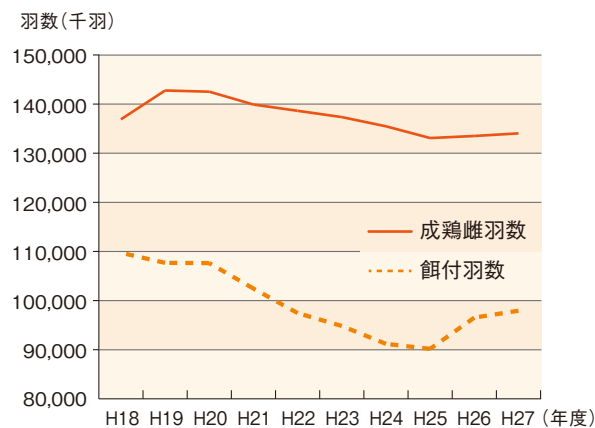
その皮切りとして7月に北海道で開催した「養鶏セミナー」では、系統生産者の皆さまをはじめ大勢の方にご来場をいただき、新しい取り組みとしてご評価をいただいた。今後も日本各地、さまざまな場で開催を予定しているため、機会があればぜひご参加いただきたい。

また、数多くの取り組みにご協力いただき、事例集に写真を掲載させていただいた農場の皆さまをはじめ、JA、経済連、くみあい飼料の方々に、この場を借りて深く感謝を申し上げたい。

全農では農場の生産性向上を大きな事業の1つと考えている。

「こんな取り組みをしてほしい」などの意見があればぜひお寄せください。

図. 餌付羽数と成鶏雌羽数の推移



農場格外卵調査事例の冊子表紙(写真左)と、札幌での養鶏セミナーの様子(右)

# 妊娠鑑定について

～不受胎豚の早期発見により生産コストの圧縮を～



交配したのに受胎していない、受胎はしたものの早期流産などが発生した母豚は、飼料を無駄食いして過ごすことになる。この問題に対して、重要な対策の1つである妊娠鑑定の実施について紹介する。

## ●妊娠鑑定の重要性について

母豚は性成熟を迎えた後、1周期140日前後の繁殖サイクルを生産にわたって繰り返す。この中で母豚が妊娠も授乳もしていない日数を『非生産日数(NPD)』という。NPDを増加させ、母豚回転率を低下させる最大の要因は、不受胎豚の発生と発情再発の見直しによる空胎日数の増加である。

このことから、日常の観察をこまめに行って、再発した母豚を見逃さない妊娠鑑定の実施が重要となる。

## ●妊娠鑑定方法について

妊娠鑑定の方法には数種類あるが、それぞれ特徴があり(表)、農場ごとで利用しやすく、かつ確実な方法を実施する。

### (1)ノンリターン法

発情確認と同様の方法で種雄豚を近づけるなどして、発情徴候を確認する。発情の確認には、

背圧反応検査や外陰部の徴候を確認する。この方法は測定器を必要とせず、簡易的に判断することが可能である。ただし、個体ごとで発情徴候に差があるため、一定の経験が必要となってくる。

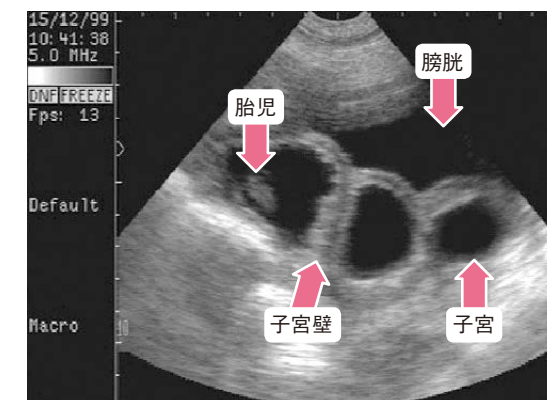
### (2)超音波画像診断法

妊娠している場合、画面上に子宮内の羊水が黒く映される(写真1)。妊娠鑑定は交配25日目あたりに1回目を行い、その後、再発豚を見つけるために、交配42日目あたりで再度実施することを

表. 妊娠鑑定方法の種類

名称	実施可能時期(目安)	方法
ノンリターン法	交配後21日目	再発の有無で診断
超音波画像診断法	交配後25日目	プローブから発射する超音波のエコーを断層像としてとらえる診断方法

写真1.



妊娠23日目の超音波画像(山口,2007)

写真2.



プローブを当てる位置の目安  
妊娠鑑定機:HS-101V

写真3.



卵胞嚢腫の画像  
妊娠画像と違い境界が不明瞭であり、輪郭が滑らかな球状を描いていることが特徴

卵胞嚢腫の超音波画像(写真提供:野口)

●「妊娠鑑定機」のお問い合わせは全農畜産サービス(株) TEL:03-5245-4874 営業担当者まで。